

## 平成28年度第1回長浜市公共施設マネジメント推進委員会 会議要点録

- 1 日 時 平成28年8月2日（火）15:00～17:00
- 2 場 所 長浜市役所東館5階 5-A会議室
- 3 出席者 ○委員計11名  
石井委員長、中嶋副委員長、有木委員、石田委員、大谷委員、  
北川委員、國友委員、野田委員、橋本委員、藤田委員、松山委員  
○事務局5名  
米田総合政策部次長（開会、議題1のみ）  
行政経営改革課：内藤課長、山口副参事、服部主査、山崎主査
- 4 欠席者 桐山委員、田中委員
- 5 傍聴者 なし
- 6 開 会
  - ・米田次長よりごあいさつ  
委員の委嘱について、快くお引き受けいただき、お礼申しあげる。今年度は個別施設計画策定に向けて活発な議論をお願いする。
  - ・定足数の確認
  - ・資料の確認
  - ・委員、事務局の自己紹介
- 7 議 事
  - (1) 公共施設マネジメントについて
    - ・石井委員より、資料に基づいて公共施設マネジメントの意義と進め方について講演いただいた。
  - (2) 長浜市公共施設マネジメント推進委員会について
    - ・資料2に基づき事務局が説明。
  - (3) 正副委員長の選出について
    - ・委員長に石井良一氏（滋賀大学社会連携研究センター教授）、副委員長に中嶋節子氏（京都大学大学院人間・環境学研究科教授）が選出された。
  - (4) 長浜市の公共施設の現状と長浜市公共施設等総合管理計画について
    - ・資料3、参考資料（長浜市公共施設等総合管理計画）に基づき事務局が説明。
  - (5) 長浜市公共施設等総合管理計画に基づく個別施設計画について
    - ・資料5に基づき事務局が説明。

【質疑・意見など】

(委員)

- ・ 長浜市公共施設等総合管理計画の数値目標を40年後に設定しているが、40年に設定した根拠はなにか。

また、設定を50年、60年とした場合、財源不足は右肩上がりに上がっていくのか、あるいは、この計画によって水平になるのか、下がるのか、どうなるのか。

⇒ 数値目標の設定については、長浜市公共施設等総合管理計画の18ページの3計画期間にあるとおり、今後30年～40年ですべての公共施設等が一通り更新時期を迎えることから40年としている。

ただし、現在は計画していないが、今後計画を立てて新たに造られる可能性もある。それについては把握していないので、現状の数値目標には含まれていない。新たな施設ができた場合は、その分の更新費用が上乗せになる。

(委員)

- ・ 規模の縮小などをしなければ、基本的に財源は常に不足と考えているのか。

⇒ 基本的にはそのように考えている。

(委員)

- ・ 我が家は築150年である。80年ぐらいでリフォームした。何をもって耐用年数としているのか。

また、少子化の時代になってきたなかで、遊休資産をどのように活用するのか。例えば、学校が多くあり統合を考えるのであれば、質の高い統合をしてもらいたい。お金がないから統合する等後ろ向きなことばかり考えず、未来に対する投資をするべきである。

⇒ そのとおりである。未来に必要なもの、投資すべきものには投資すると考えている。悪い例であるが、各自治体においては行革的な立場から、財政改革的な立場から施設を減らすという話が進められており、計画として頓挫することがある。当市としては計画を作っているが、実際に進める場合には地元の方などからいろんな意見を聞きながら、進めていきたいと考えている。

よくある話であるが、総論は賛成、各論は反対で我が村の施設は絶対に廃止してはならないという後ろ向きな話があるけれども、それは真に必要な施設かどうかを全体的に議論して、不要であれば廃止し、必要であれば残すといった取捨選択して進めていきたいと考えている。

また、手入れをすれば耐用年数以上にもつ施設は多々あるが、今回は国が示した基準で設定している。将来に必要なものには投資していくというスタンスに変わりない。

(委員長)

- ・ 昨年度の委員会でいくつか事例を見たが、たかつき認定こども園の建設、高月支所や旧上草野小学校の有効活用など、市もいろいろな工夫をしている。何らかの形で地域に喜ばれるものという発想も大切だと思う。

(委員)

- ・ 木之本町に伊香具小学校という小さな小学校がある。本来であれば統合すればよいのであるが、PTAが村中挙って一生懸命盛り立てている。なかには、木之本小学校と統合したらという人もいるが、なかなかうまく進まず感情論になる。統合などになった場合、施設の利用者や施設を盛り立てている地元住民のメンタル面をどうするか。

また、この前の九州や兵庫等、地震が起きないと言われてきた所でも地震が起きている。予算のこともあるが、こういった災害時などに安心・安全な施設となるようなことを考えるべき。

(委員)

- ・ 転用して利活用できる場合は利活用していくなかで、古い施設を解体して跡地は有効活用できると思う。余呉地域にもかなり古い施設がある。できれば解体という方針を取っていただきたい施設もかなりある。今年度は解体の予算が一切見受けられない。具体的に解体となった場合、予算面の整理はどうなっているのか。

⇒ 解体の予算は付いていないという話があったが、いくつか解体の予算が付いている。今年度は旧杉野保育園、長浜市サイクリングターミナルなどに解体予算が付いている。解体までの大まかな流れとしては、公有財産利活用推進本部会議で施設の利活用ができないか諮り、場合によっては民間の方が参入しないか公募したうえで、手が挙がらない場合は解体へと進んでいく。

また、施設の土地は市有地だけではなく、借地なども含まれる。そのような面で費用が発生していることから、あまり活用されていない施設については極力解体し、土地を所有者に返還する方向で進めていくと考えている。

市では活用していないが国の解体費用の補助制度もあり、今後その制度も視野に入れて検討したい。

(委員長)

- ・ 関連して資料4、5ページ、6ページの説明をしてもらいたい。

⇒ 資料4に基づき事務局が説明。

(委員長)

- ・ 当委員会において、毎年度の公共施設の削減率について確認していくことになる。

(委員)

- ・ 1点目、40年間の財源不足額446億円は修理、修繕は含めずの更新費用なのか。  
2点目、数値目標と基本理念の整合性を委員会で議論するのか。委員会がすべてではないと思うが、将来のことを考えるので20～40代の若い方の意見を取り入れる機会があればよい。

3点目、委員会の位置付けはどうなっているのか。個別施設計画の原案を審議した後、こういった流れで策定となるのか。

⇒ 1点目の更新費用については、現在の施設と全く同じ施設を造ることで算定をしている。

2、3点目の委員会の位置付けとして、計画は最終的に市長の名前で策定をすることとなっているが、職員だけでは公務員的な発想しかできないので、外部の委員からいろんな意見を聞くということで、こういったメンバー構成になっている。若い方の意見については、必要であると重々承知している。各種団体の代表から組織している委員会であるため、こういった年齢構成になっている。

計画策定までの流れは、素案を作成し委員会で議論いただいた上で最終形の案を作る。それを基にパブリックコメントを行う。若い方も含め、市民からいろんな意見を聞き、再度委員会で調整を行うという段階を踏んでいくので、委員会の中だけですべて決まるということはない。また、パブリックコメントを行う前には議会にも説明し、議会の意見を素案に反映させていく。

(委員)

・ 豊公園の駐車場はなぜ無料なのか。もっと市の有益を考えるべきではないか。  
⇒ 現在は旧市民プール解体の関係で更地になっているが、今後はいろんな整備が考えられており、駐車場有料化の方向で動く話も聞いている。

行政だから無料ということが当たり前になっているが、必要なものは必要として、利用料金制なども考えられていくのではないかと思うが、この場で何がどうなるかは言えないが、そのようなことも踏まえながら計画を作っていく。

## 【その他意見・感想】

(委員長)

- ・ 閉会の時間になったが、発言されていない方から一言ずつ感想をいただいて閉めたいと思う。

(委員)

- ・ いろいろ勉強をして、意見を言えるようにしていきたい。

(委員)

- ・ 設備の維持管理を48年やっているが、その時点で建てられた建物がほとんどないことが現状である。旧上草野小学校は出身校であり、小学校も中学校も統合されて今はもうない。将来的に人口減少を考えたらうえて、計画を練ってもらいたい。

(委員)

- ・ 個別施設計画の数値目標について、数値目標だけに捕らわれた個別施設計画、数値目標を達成するための個別施設計画であってはならない。今後計画を見て、意見を出させてもらう。

(委員)

- ・ 一市民として、もっとこのようなことに真剣に取り組まなければいけないと認識を新たにした。合併後、電気代や使用代、利用料金の値上げなど公共施設についての苦情を聞いていたが、対極的な見方をすれば仕方がないということもわかる。できるだけ隅々まで優しい気持ちを持って取り組んでいただきたい。遠方の人が市役所まで足を運ぶということはなかなかできないので、そのような面は考慮してほしい。

(委員)

- ・ いろんな公共施設があるが、改築などを決める前に、地域で施設の必要性を問うのはどうか。湖北地域にある市の管理施設は、草が伸び、誰も手を付けない状態であったので、自分で除草剤を撒いて手入れをしているが、支所の職員は礼を言うだけだった。礼を言うってもらうためにしているわけではない。いらぬものは売ってしまえばいい。長浜市は裕福な自治体ではないので、それなりの辛抱が必要ではないか。今までと同じようにあれもこれもしてほしいと言うのではなく、辛抱していかないといけない。地域ごとに必要な施設か、もっと極め細かに聞いて策定してほしい。計画を見ると、勝手に決めて進めているように受けとれる。みんなの気持ちを聞いてほしいないつも思っている。

(副委員長)

- ・ 前回作成された管理計画についてはパブリックコメントでも意見がなかったが、個別施設計画になると直接自分たちの生活に関わってくるので、さまざまな意見を持っている

る人がいると思うが、果たしてパブリックコメントだけでよいのか。わざわざ閲覧に来て意見を書いてもらうことが期待できるのか。反映するかは別として、地区ごとに意見を聴取する姿勢は非常に重要ではないか。計画ができた後も、ワークショップ形式など市民参加の形式を、今の時代、なんらかの形でもっていかなければならない。市民が意見を言いやすい、参加しやすいようなことは行政にとって大変なことだが、やらざるを得ないことではないか。

「施策の柱」と一緒に考え、目標やテーマを掲げて進めると、市民が納得してもらえらることもあるのではないか。長浜市としてどこへ向かっていくのかを協議していくような施設計画・管理計画であってほしい。

(委員長)

担当課としては計画全体のマネジメントの役割を担うことになるが、ただ単に各課がこうしたからといってホッチキスで束ねるだけでなく、複合化、地域の最適配置、市民の意見、特に若い人の意見の聴取も含め、計画のマネジメントが重要と考えるので、今後検討していただきたい。

第2回に原案をパッと出されても、よく分からないので、事前に委員の皆さんに配布をお願いしたい。

(委員)

- ・ 各課で施設類型ごとに検討をしているとのことだが、例えば福祉系との複合化などの話も素案に盛り込むのか。
- ⇒ そのとおりである。まずは課レベルで検討し、複合化したいという話があれば、随時横断的に考えていくこととしている。

個別施設計画の今後の方針の出方として、すでに方針が決まっている施設については個別に出ってくるが、それ以外はある一定の条件付きで出てくることになる。

(事務局)

- ・ 市民の方の意見をという話があるが、総論賛成、各論反対となる恐れが多々ある。自分の地域の施設は守りたいが、他の地域の施設は知らないということになる。また、地域間の昔からの流れがあり弊害となっていることも多々ある。はっきり言って割り切ってもらわないと、この計画は進まない。
- ・ 若い方の意見聴衆については、委員会ではなく懇話会など形を変えてでも意見聴衆ができる場の設定を今後は検討していきたい。

## 8 閉 会

以上